

一 般 質 問 通 告 書

令和4年11月14日

議 会 議 長 様

議席番号 1 番

議員氏名 岩 崎 直 美

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
1. 幼児期からの音感、耳のトレーニングを	「英語の耳」という言葉をご存知でしょうか。 この言葉は、フランスの耳鼻咽喉科医であるトマティス博士が、日本に来日した際に、日本語の周波数について分析し、「音声には耳が聞いたもの以外は含まれない」つまり「聞こえないものは話せない」と、長年の研究と臨床体験から明らかにされました。 人間の胎児は、妊娠中の母親の、お腹の羊水の中にいる時から母親の骨を通して、母親の声を骨伝導で聞いています。そして、その時期から胎児は日本語の音・周波数・イントネーション・リズムを自然に身に着けます。 歌を覚えるときに、決して歌詞を覚えてからメロディを覚えることはないように、言葉も、言語のメロディにのせて覚えるべきものです。 2020年度から、小学校3年生以上の英語教育が開始されました。早い時期から耳のトレーニングについて取り組むことが大切であり、コミュニケーションの要となる耳の教育やトレーニングを幼少期から実践していただきたいと考えます。 そこで、以下伺います。 (1) 小学校における現在の英語教育の内容とその評価は。 (2) 保育園、幼稚園で流している音楽は。 (3) 園内で、歌を歌う頻度と楽器に触れる機会は。 (4) 音と耳に焦点をあわせる教育を取り入れる考えは。	町長 副町長 教育長 子育て支援課長 健康支援課長 教育次長 学校教育課長 担当課長

11月14日 午前・午後 1時30分 受理

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
2. コミュニティセンターの内装、インテリアに個性と工夫を	(5) 英語を話す最大の目的は、自国の伝統文化と正しい歴史を他国の人に、きちんと伝えることと考えるが。 多くの町民の方から熱い期待が寄せられているコミュニティセンター建設につきましては、誰もが居心地の良さを求めて足を運びたくなる環境をつくることが肝要かと考えます。 ひいては移住定住を促進し、より魅力的な施設とするためには、建物のインテリア、内装などの細部まで、十分な配慮をしていただきたいと考えます。 そこで以下、伺います。 (1) コミュニティセンターの内装についてのアイディアは。 (2) 子育て支援センターなどの各室内環境については、将来多目的に使える工夫として、梁を設置してはどうか。	町長 副町長 住民協働課長 子育て支援課長 市街地整備推進室長 担当課長
3. 若い世代、ケアラーも、気軽に相談できる環境を	当町では、高齢者よろず電話相談が始まりました。オレンジ色で、フリーダイヤルが書かれたマグネットが高齢者各世帯に配布されました。類似の電話相談を実施している他市区町村と比較しても、当町の利用率は高く、反響があるとお聞きしました。 しかしながら、実際に支えを必要としている、ヤングケアラー等の方々には、ほとんど利用されていない状況です。 そこで、伺います。高齢者へは、国の補助金を活用しましたが、介護をしている若い世代への周知は、町で対応していく必要があると考えます。町の見解と、どの様に対策をとられるのか。	町長 副町長 福祉課長 高齢介護課長 担当課長